

平成31年度新規採用者(44名)の記念撮影
辞令交付式の後、本館中庭において行われました



浴風会

4 月 号

平成 31 年 4 月 1 日発行
【発行者】〒168-8510
東京都杉並区高井戸西 1-12-1
社会福祉法人 浴風会
京極 高宣
TEL (代表) 03-3334-2101
<http://www.yokufukai.or.jp/>
【編集者】露口 長
【印刷所】株式会社サイド・ビー

浴風会会長に就任して

会長 佐々木

ふみお
典夫



二月一日をもって、京極理事長をはじめ役員の皆様のご推挙により図らずも浴風会会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

浴風会は、関東大震災で被災された高齢者等を保護、救済するために、大正十四年に当時の内務省社会局内に財団法人として創設され、戦後昭和二十七年に社会福祉法人に改組され、今年が創立九十四年目を迎えております。

私は、昭和四十一年に厚生省に入省し、新人研修で浴風会の存在を知りました。その後数回の社会局勤務を経験する中で、社会局OBの皆さんを中心に、困難な時期にも浴風会の発展に腐心してきた様子は承知しておりましたものの、退職後は直接かかわる機会はありませんでした。

平成二十七年の創立九十周年・高齢者保健医療総合センター落成記念にお招きいただき、全面改築された浴風会病院と新築の老健施設を見学する機会を得たほか、諸施設の全面改築、高齢者政策の進展に対応した数々の新規施設の整

備が計画的に進められ、我が国屈指の総合的高齢者保健・医療・介護施設に見事に発展していることに目を見張りました。特に認知症介護研究・研修東京センターが設置されたことは、感慨深いものがありました。何せ、私の社会局老人福祉課長の在任(昭和五十七・五八年)は、有吉佐和子さんの「恍惚の人」が出版されて十年ほどで、老人福祉施策も質量ともに未だ貧弱でした。当時はまだ認知症とは言わず、ささやかな痴呆性老人処遇技術研修事業の予算要求をしたりにしてもがいていました。

先般、浴風会事業の現況をうかがいました。一日ご利用者が約2300人、スタッフは常勤換算で約860名、年間事業費は約85億円の規模に達しており、事業部門ごとの取組みも順調に推移してきています。しかし、ご多分にもれず、介護看護の人材の確保をはじめ、働き方改革への対応、安定的経営基盤の構築など様々な課題があるとのこと。

浴風会の「浴風」は、「孔子が四人の弟子に登用された場合の抱

負を聞いた時に、三人は政治家や外交官としての勢い込んだ抱負を述べたのに対して、曾皙(曾子の父)は、遠慮がちに「晩春のよい季節に新調の春服を着て、若者たちを連れて水浴びをし、涼風に吹かれ、歌を歌いながら帰れるような境遇になりたい」と答えたところ、孔子は曾皙に賛成した」という論語(先進第十一)からきている由。改めて創業時の先人は味わい深い名前を付けたものと畏敬の念を感じるとともに、「創業は易く守成は難し」と言われますが、実に多くの関係者が時代の変化に即応して長年努力を積み重ね、今日の浴風会に大きく発展させてきたことに頭が下がります。

縁あって今、浴風会に働く皆さんには、感謝の気持ちを忘れずに、浴風会のさらなる発展と高齢者福祉の一層の増進のために、歴史ある法人の職員として胸を張って一丸となって励んでいただきたいと念願いたします。私も共に微力を尽くして参りますので、よろしくご厚誼を賜りますようお願いして就任のご挨拶といたします。

「地域と共に」を 常に問うて

専務理事

江波戸 一敏



浴風会には小さな子供たちの遊び場として利用できる芝生地が少し広がっている。晴れた日には、よくふう保育園や近隣の保育園の子供たちがここで遊んでくれている。爺さん（私のこと）がこの様子をみていると、傍に寄ってきて、お話を聴かせてくれたり、ハイタッチをしてくれたり、拾った落ち葉をくれたりする。これがどうしようもなく可愛く、爺さんは知らず知らずのうちに笑みをこぼしているのである。

浴風会は、樹木などで周囲を囲まれているので中の様子が窺えず、用事がないとなかなか入りづららしい。確かにあの正門を前にすると、立ち入ることにためらいを覚えてしまいそうではあるが、特段の制限を設けているわけではないので、保育園の子供たちと同様に、散歩がてら遠慮なく足を踏み入れ、ゆつたりとした様子の浴風会を感じて欲しい。

さて、浴風会は今「地域と共に未来を拓く」を百周年に向けたスローガンとして掲げ、職員一同、この考えに従って職務に励んでいる。新年度も、施設設備の開放やカフェ事業によるみんなの居場所づくり、在宅医療等を推進して地域とのつながりを深めるとともに、外国人労働者の雇用や先端技術の活用による各事業部門の成長・革新にも取り組むなどして、法人の持続的な成長を見据えた経営基盤づくりに努めていきたい。

「癒し」と浴風会

業務執行理事・病院長

伊藤 嘉憲



「癒す」という言葉は「病気や傷をなおす。飢えや心の悩みなどを解消する」（広辞苑）と定義されています。近年では、そこから派生した「癒し」という表現が人口に膾炙（知れわたる）しており、広辞苑第六版（二〇〇八年改訂）に「癒し系」Ⅱ「心を和ませるような雰囲気や効果を持つ一連のもの」として採録されています。混沌とした社会情勢の中、さまざまな不安やストレスにさらされながら生きる現代人において、音楽・温泉・アロマセラピー・森林浴・動物（ペット）をはじめとする「癒し」のニーズが年々高まっているようです。

浴風会は豊かな自然に恵まれています。訪れる方々は、可憐な草花を愛でながら散策したり、池の鯉や亀を眺めたり、思い思いに「癒し」を味わっておられるようです。礼拝堂やお地藏さん、樹齢百年を超える長寿木にスピリチュアル（霊的）な「癒し」を感じる方もいらっしゃるでしょう。

外来に通院されている患者さんから、「世間は殺伐としたニュースに満ちているが、ここに来るとホッとする」「職員の優しい笑顔に心が和む」といったお言葉をいただくことがあります。ハード面およびソフト面において質の高い医療をめざすことは病院として当然の責務ですが、病気のみならず、患者さんおよびご家族の心が少しでも癒されるような病院づくりに取り組んでまいりたいと存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

年年歳歳

業務執行理事・南陽園長

百瀬 律子



新しい年度を迎えました。

毎年この時期は、新年度の事業計画・予算、前年度の事業報告・決算を、内部調整を図りつつ立案しなければなりません。また、全体家族会、職員事業計画説明会開催に向けての資料作成も必要になります。職員が一堂に会することはできないため、特養3施設は1か月余りをかけ、それぞれの施設で、年間方針や予算、委員会等で職員自らが立てた年間目標などを、職員に説明していきます。

今年度は、消費税改正に伴い、10月から介護報酬が改定され、平成18年に定められた食費・居住費も初めて見直されます。ご利用者の負担が増えるばかりではありますが、昨今の特養運営は厳しさを増しており、ご理解をいただくばかりです。

また、特定介護職員処遇改善加算も新設されます。10年以上勤務する介護福祉士を中心に、一層の処遇改善を図るもので、職員も期待しています。ただ、当会は介護保険事業所以外で長年勤務する介護福祉士も多く、法人全体で検討していきます。

この慌ただしい、桜の時期にいつも思い浮かぶ言葉は、「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」です。昨年度当園は、多くのご利用者とお別れをしました。定年を迎えた職員もいます。構内に咲く桜を眺めつつ、別れと新たな出会いに思いを馳せ、新年度に臨みます。

新しい時代も 「明るく楽しく元気よく！」

業務執行理事・浴風園長

小室 清吾



新しい時代の幕開けを迎えようとしています。

「いつもどおりがいかに幸せか」平成改元時の有識者懇談会の方が「平成時代」を総括された一言です。地震や豪雨等災害が多かっただけに痛感させられます。

浴風会も大正、昭和、平成と長い歴史を刻み、いよいよ一〇〇周年を迎えるに当たって四つ目の時代となります。新しい時代も伝統ある揺るぎない福祉の基盤の上、時代に取り残されることなく、一日一日の取組を丁寧積み重ねていきたいと思っています。

浴風会の老人福祉事業は、一〇一歳の方を最高齢に平均年齢も八〇歳を超え、身体機能が低下し、複雑多様な精神的支援も増大しています。

このような現状を踏まえ、介護保険サービス等の活用も図りながら、新しい時代も利用者の皆様が可能な限り住み慣れた施設で、「明るく楽しく元気よく！」生き甲斐のある生活を継続できるように取組を進めます。

また、ご利用者の知識・特技を活かしたご利用者による講演会や料理教室等を地域に向けて更に展開するなど、全職員が一丸となって多職種協働で多様化したニーズに即応できるよう、サービスの充実にも努めています。

園長一年目、皆様の温かいご協力の下、何とか乗り切ることができました。ミスターこと長嶋茂雄さんも監督一年目は最下位でしたが、二年目は見事リーグ優勝しています。「ボーっとして、チコちゃんに叱られないよう」、ミスターの熱い思いを見習って二年目の新しい時代も更に努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

時代の変化、地域の変化に、 迅速・的確に対応する

業務執行理事・

地域サービス部長

遠藤 雅晴



平成31年度は新しい時代の幕開けの年です。そうした中、地域社会の変化は目覚ましく、地域で暮らす人々の意識や、地域のニーズも変化しています。新年度の地域サービス部の目標は、「時代の変化、地域の変化に、迅速・的確に対応する」です。

まず、高井戸地区地域包括ケアシステムの構築を、着実に進めていかなければなりません。新年度は、地域の見守りなどの生活支援体制の整備に積極的に取り組み、多世代の交流も視野に入れながら、認知症や、介護が必要になっても、「お互いさま」の気持ちで支え合える地域共生社会づくりを進めてまいります。

ケア24高井戸では、医療と介護の連携の推進を図るとともに、元気高齢者が活躍できる場や支え合いを推進する仕組みをつくっていきます。

また、居宅介護支援事業所やヘルパーステーションの事業では、当会の基本理念である「利用者中心のサービスの提供」を常に念頭に置きながら、地域のニーズに柔軟に対応できるよう、人的体制の確保に努めます。

3年目のよくふう保育園は、受託事業者・上水保育園と連携し、職員の子育て支援の充実を図るとともに、地域の保育需要にも臨機に対応してまいります。

新年度も、地域サービス部の各事業を、どうぞよろしくお願いいたします。

認知症。ポジティブ

業務執行理事

認知症介護研究・研修

東京センター長 山口 晴保



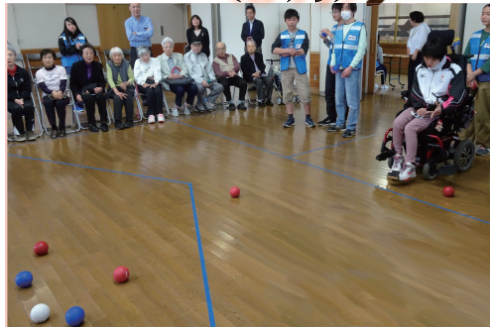
「認知症ポジティブ」を東京センターの向かう道に定めています。①「認知症は長生きの勲章」とポジティブに捉えること、②認知症になってもできることがたくさんあり、ボランティアとして活躍することもできること（昨年7月に厚労省より事務連絡が出て、デイサービス利用中に公園の清掃や草取りなど有償・無償の地域ボランティア活動が公式に認められた）、③本人も認知症介護者も考え方次第で幸せを感じながら生きられること、④認知症の偏見が無く、認知症の人を受け入れ、認知症の人が活躍できる「認知症にやさしい地域」を創ることなどの活動です。「ネガティブからポジティブへの転換」を目標として、2019年も邁進します。

東京センターは、日本医療研究開発機構の研究費などを得て、認知症ケア研究を進め、東京センターが立ち上げたウェブジャーナル「認知症ケア研究誌」に、研究成果を報告しています。今後を見据え、IOT/AIケア（センサーや人工知能を活用したケア）の勉強も始めました。

また、認知症地域支援推進員研修などを通じて、認知症の人にやさしい地域づくりに貢献しています。

2019年、東京センターは、浴風会の基本理念の一つである「地域との協働と社会貢献」を基としながら、さらに、日本における認知症ケア研究の中心的役割を果たすべく、スタッフ一同の力と心を合わせて、社会に貢献します。

浴風会の動き (3月)



ボッチャ体験会 (3月25日大ホール)

【本部事務局】

8日 東京医科歯科大学3名見学。

12日 「31年度予算審査会(内部)」開催。

25日 「みんなでパラリンピック」ボッチャをやってみよう! 朝日新聞厚生文化事業団主催。富士見丘中学校生徒さんもボランティア参加。

27日 「第5回理事会」開催。「30年度第2次収支補正予算」、「31年度事業計画及び収支予算」、「施設長人事」について承認されました。

28日 「春季彼岸法要」開催。

29日 「定年退職者辞令交付式(対象11名)」開催。(浅井)

浴風会ケアスクール

Caféオレンジリボンウッド

1、8、15日 千代田区介護講座「かきやき介護スクール実践編」参加者1日31名、8日32名、15日23名。講師：青柳佳子氏、(職員) 古田医師。

13日 「よくふう語ろう会(認知症介護家族会)」参加者22名。

16日 都立永福学園卒業式招待(職員)扇野。

11、22日 Caféオレンジリボンウッド開店。来店者11日45名、22日53名、次回は4月8日(月)本館1階第三会議室にて開店いたします。パン、焼き菓子、コーヒールの他素敵な小物の販売と、折り紙など一緒に楽しめる手作りコーナーもあります。みなさまのご来店をお待ちしております。(鈴木)

【老人福祉事業】

浴風園 (養護老人ホーム)



5、6日 「クラブ作品展示会」を開催しました。茶道クラブによるお茶席が和室、書道・陶芸・絵手紙・折り紙クラブの方々や個人の皆様による作品展示が大ホールで行われました。作品観覧やお茶を楽しみながら皆様会話も弾まれていました。

7日 公益社団法人日本動物病院協会の皆様がアニマルセラピーボランティアとして来園されました。前回より参加者が増え31名のご利用者様が集い、賑やかで笑顔多い時間となりました。(宮崎)

松風園 (軽費老人ホーム)

2日 「ひな祭り」。ひな祭りに向けて、食堂前にひな人形と桃の花を飾ったほか、吊るし雛などで桃の節句の雰囲気を作っていました。2日の昼食には桜餅を召し上がって桃の節句を楽しんでいただきました。

25日 「ボッチャ体験会」。大ホールで行われたボッチャの体験会に、利用者

有志が参加されました。またロンドンパラリンピック代表の秋元選手、同チームを率いた古賀監督の指導の下、富士見丘中学校からボランティアに来て下さった中学生とともにボッチャを体験しました。日頃、園内では狭い場所で行っていましたが、正式なサイズのコートでも成果をいかんなく発揮して、古賀監督からも褒めの言葉をいただくなど楽しいひと時を過ごされました。(宮中)

浴風会ケアハウス

1日 「ひな祭りバイキング」。握り寿司(実演もあり!)、熱々の甘酒をいただきました。

14日 「カフェケアハウス」。ホワイトデーにちなんでチョコレートファウンテンを行い、いちご・カステラ・マシユマロにチョコをまとうせながら、盛り上がりました。

27日 「歩こう会」。神田川の久我山(三鷹台を、お花見も兼ね歩きました。(尾滝)

【介護保険事業】

南陽園 (特別養護老人ホーム)



2月27日 「第15回浴風会職員実践・研究発表会」で、褥瘡予防対策委員会のメンバーが「トイレ利用リフト導入に向けた取り組み」を、4階フロアが「生活の場からの旅立ち」を発表し、4階フロアの発表が優秀賞に選ばれました。

3日 「ひな祭り」。各フロアに飾られ

た雛人形の前には大勢のご利用者が集まり、ひな祭にまつわる昔話に花を咲かせました。

31日 「全家族会」を開催し、31年度事業計画等についての説明を行いました。(丸山)

南陽園在宅サービスセンター

(認知症対応型通所介護)

4月1日付で、生活相談員が徳増尚高から鶴間由美に代わります。

徳増は昨年7月より担当し、短い間でしたが、皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。認知症通所介護に携わらせて頂き、在宅でのお客様の生活を中心に、地域での支援をたくさん学ばせて頂きました。本当にありがとうございました。

今後は同施設内の生活相談員として、引き続き、支援・サポートさせて頂きます。今後とも宜しくお願い致します。(徳増)

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。(徳増・工藤)

◎電話03-3334-2743

第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

2月27日 「職員実践研究発表会」で、機能訓練指導員が「臀部圧測定からの車いす座位の取り組み」について発表を行い、優秀賞をいただきました。ご利用者が少しでも安楽な座位を保持することで、生活の質の向上が図られればとフロアでの実践を取りまとめ発表しましたものです。

3日 「ひな祭り」には玄関に飾られ

たひな壇の前で記念撮影をされ、昼食にはちらし寿司を頂きました。

3月になり、気温も暖かく近隣の書店やご自宅への外出支援を行いました。(山崎)

第二南陽園在宅サービスセンター

(通所介護、介護予防通所介護)

11日 ボランティアの方

のご協力を頂き、「ウクレレとハワイアンバンドの演奏会」を開催しました。



18日 「俳句の会」を開催しました。多くの方にご参加頂きました。(隈本)

★見学申し込みやデイサービスへの質問やお問い合わせは随時受け付けています。

◎03-3334-2140

第三南陽園

(特別養護老人ホーム)

2月27日 「浴風会職員実践・研究発表会」。5階フロアが「人生輝き続けたい！キラリ・ホットなあなたを応援します」という題名で、認知症のご利用者が、施設という新しい社会生活に溶け込み、ご自身の役割を創っていく素敵なストーリーを発表し、最優秀賞に選ばれました。

3日 「ひな祭り」。各フロアに7段飾りの立派なひな人形を飾り、記念撮影をしたり、昔話に花を咲かせました。

13日 「お楽しみ会」。3階フロアでホットケーキをご利用の方々と一緒に作りクリームや果物、チョコレートでデコレーションして楽しみました。「可愛く飾り付けられたわ。美味しそう。」と笑顔でお話しされていました。(谷口)

グループホームひまわり

3日 「ひな祭り」。七段飾りの雛人形の前で、素敵な笑顔で写真撮影しました。お昼にはちらし寿司を、おやつには桜餅を食べてお祝いをしました。

14、28日 「わがまち一番体操」。地域の方々と一緒に体操です！しっかり体を動かして、心と共にリフレッシュしてきました。

20日 「ぼた餅作り」。皆様でご飯を丸め、ラップにあんこを伸ばし、その上に丸めたご飯を置き、お彼岸のぼた餅を作って頂きました。あんこときなどの2種類を作り、美味しく頂き、大満足でした。(村下)

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

2月28日 杉並区生活支援体制整備の第2層協議体として『これからの地域のことを考える会(仮称)』第1回開催。高齢分野の関係者だけでなく、民生委員始め、地域の方や学校関係者、児童館、障害関係、地域活動をされている方々等地域に関心を持たれている方々が50名参加して下さいました。そこでは、先ずお互いを知る場になり、そして地域の状況を語り合える場になりました。どうしても、縦割りの制度で途切れてしまうこともありますがお互いに他分野の活動を知ること、地域でのお互い様を意識した活動が広がり、繋がっていきける可能性を



感じました。

会の名前も皆で決めながら、運営に關しても、住民の皆さんと一緒に考え、誰もが安心して住みやすい地域づくりを今後も目指していきたいと考えています。(尾関)

杉並区地域包括支援センター

ケア24高井戸

◎電話03-3334-2495

【病院事業】

浴風会病院

当院では4月より全国健康保険協会管掌健康保険(協会けんぽ)にご加入の方の「生活習慣病予防健診」が受け頂けるようになりました。受診を希望される方は予約制となりますのでお電話でのご予約をお願い致します。

健康診断は月曜から金曜(祝日を除く)の午前中となります。お電話でのご予約は、月曜、金曜(祝日を除く)午前9時から午後5時までです。

◎予約電話 浴風会病院(代表)03-3332-6511 (中澤)

健診担当まで

老健くぬぎ (介護老人保健施設)

4、6日 3階ダイケアでは「ひな祭り」の行事を行いました。ひな人形を飾り、菱餅積み上げゲームで楽しみました。

8、15日 2階入所フロアにて「書道クラブ」を開催しました。昨年秋季より月2回ほど行っておりますが、ボランティアの先生の指導で力強い字を書かれています。

22日 ボランティアによる恒例の「フルートコンサート」を開催しました。毎月のコンサートとなっておりますが、入所者の皆さんは楽しみにされております。(森屋)

★入所・ダイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。

◎03-5336-7701(代表)

◎03-5336-7734(入所)

◎03-5336-7704(ダイケア)

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

4日 AI認知症ケア研修会(25名参加)

7日 5階角部屋漏水対応工事実施

15日 推進員報告会(品川区内)

18日 3センターDCネット運用連絡会議(東京駅近郊)

25日 認知症ケアレジストリの利活用研修会(15名参加)

27日 屋上排水口廻り補修工事実施(村上)

ご芳志

平成31年2月16日から3月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。ありがとうございました。

〈金品・物品〉

宮沢 郁子様、北原 元彦様

東京都生活協同組合杉並区連絡会様

東京都社会福祉協議会 東京善意銀行様

天沼キリスト教会様

第15回 職員実践・研究発表会を終えて

企画開発本部 研修企画部長 宮島 敏

一・会内外から164名参加

去る2月27日(水)、15回目を迎えた職員実践・研究発表会が本会コミュニティ・ホールで開催されました。これまで審査基準の公開や抄録項目の標準化を図ってきましたが、今回は将来的な演題数増の見込み、食事時間等現場業務時間との重複防止、数年来定着している養成校参加の時間確保等の観点から、午前10時から16時の発表会となりました。

二・現場を踏まえた11題の発表から表彰

9施設から11の発表が行われ、最優秀賞には「**三南陽園『人生輝き続けたい〜キラリ・ホットなあなたを応援します〜』**」が選ばれました。その概要は次のとおりです。(抄録より作成)

(1) 研究前の状況・課題／現在70歳、要介護度3、男性、アルツハイマー型。現役時代は編集業務に従事。趣味・コレクションが多い。4年前から外出後帰宅困難があり、2年前に入所。入所後は部屋にこもりがちで夕方帰宅願望が強く、荷物をポケットに詰めて離室を繰り返す、またフロアの物品を収集しタンスにしまう等の他、職員への威圧的な言動や他の利用者とのトラブルがある。

(2) 研究によって期待する成果／居心地よく穏やかに過ごせるように、アプローチを①居住空間の整備、②やりがい・役割の創出、の2点に絞り、行動・心理症状(BPSD)の緩和をはかる。

(3) 取り組みの方法・内容／□環境整備…家族の協力を得て自宅にあるコレクションを居室内に移管し、自宅に似た環境に整える。↓帰宅欲求に基づく行動の変化を観察、記録化する。□やりがい・役割:①テラスの整備と植物の世話と、②食事メニューのホワイトボードへの転載を依頼し、コミュニケーションの密度を高める。↓リビングでの滞在時間を集計

本人の言動の変化を観察する。

(4) 取り組みの結果／□行動の変化:帰宅願望に基づく行動回数が減少、フロアの物品持ち帰りも減少。□役割の獲得による変化:自発的な手伝いやリビング滞在時間が増加、他の利用者に笑顔での挨拶や席を譲る等の行動が増え、威圧的な言動はほとんど見られなくなった。

(5) 考察・まとめ／□本人の望む生活や本人らしさの確立:信頼関係の確立や交流意欲の喚起につながる。□肯定的な言語の大切さ:承認欲求の充足につながる。□情報の共有化と継続:統一的なアプローチが可能になる。□さらなる課題:他の利用者にも場面を創出し拡げる。

なお、優秀賞には「南陽園『生活の場からの旅立ち〜あるご利用者の物語〜』」と「第二南陽園『腎部圧測定からの車椅子座位の取り組み』」の2題が、また審査員長賞(岡本多喜子明治学院大学教授)には浴風会病院『浴風会における基質特異性拡張型β-ラクターマーゼ(ESBL)産生菌の検出状況と感染制御のための取り組み』が選ばれました。

三・発表会をふりかえって

研究発表会で獲得できる最大の成果の一つは、実践研究の成果や課題を取り入れることができることを発見し検討することです。発表演題の中には全国的な課題にも通じる発表もありました。山積する課題を「仕方ない」としてしまいうのではなく改善に取り組む、職種ごとのアプローチの違いを受容しながら協働することが現代的課題であるとすれば、フロアからの質問が少なかったのが残念でした。また参加した職員のアンケート回収率が74.4%(その肯定的評価は9割)ですので、更なる関心度の高揚に向けて「我が事・丸ごと」一層の研鑽に努めたいものです。

◆第15回職員実践・研究発表会

30.2.27

施設名	発表内容	発表者
1 第二南陽園	腎部圧測定からの車椅子座位の取り組み	○ 明石たかね 吉田真麻
2 松風園	住まいの中での専門的機能訓練の効果と影響 ～健康運動指導士による施設内機能訓練に関する報告～	○ 寺林祐貴
3 老健くぬぎ	在宅強化型老健への取り組み ～自宅復帰に向けたリハビリの役割～	○ 市川育美 大澤真理
4 南陽園	トイレ用リフト導入に向けた取り組み ～ご利用者と職員の負担軽減を目指して～	○ 山下ジョーセフカズ 高木 和貴
5 南陽園	生活の場からの旅立ち～あるご利用者の物語～	○ 井上裕賀 弦巻茂樹
6 浴風会病院	高齢者病棟でのエンドオブライフに関する意識調査と臨床現場でのケア実践	○ 杉浦仁哉 出村友香
7 浴風会病院	浴風会における基質特異性拡張型β-ラクターマーゼ(ESBL)産生菌の検出状況と感染制御のための取り組み	○ 磯貝晴彦
8 浴風園	人財確保～業務の最適化～	○ 山口拓 高木勇治
9 ケアハウス	人と人とを笑顔でつなぐわたしの持ち味 ～ケアハウスクッキング編～	○ 佐々木咲侑里
10 グループホームひまわり	活き活きと生活する為に ～グループホームにとっての地域交流とは?～	○ 今井和枝 佐藤美子
11 第三南陽園	人生輝き続けたい! ～キラリ・ホットなあなたを応援します～	○ 山内美知代 寺川直哉

【ご意見をお寄せください】

〒168-8510※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

soumu2@yokufukai.or.jp

http://www.yokufukai.or.jp/

